

財政福祉委員会 請願・陳情一覧

平成29年4月26日(水)

○ 健康福祉局関係 (新規分)

平成29年請願第2号 介護労働者の勤務環境改善及び処遇改善の実現を求める
意見書提出に関する件

平成29年請願第3号 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤・交代制労働の改
善を求める意見書提出に関する件

平成29年陳情第6号 憲法第25条を守り、障害者権利条約に基づいた障害者福
祉施策の実現を国に要望し、障害者福祉施策を充実させ、
福祉労働者の労働条件を改善することを求める件

(保留分)

平成28年請願第5号 介護保険制度の改善を求める件

平成28年請願第22号 国民健康保険制度、高齢者医療制度及び介護保険制度の
改善を求める件

平成28年請願第24号 若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める意見
書提出に関する件

口に要望(2018年度)ことから保留

介護労働者の勤務環境改善及び処遇改善の実現を求める意見書提出に関する件

請願者 天白区笹原町1706番地
愛知県医療介護福祉労働組合連合会
副委員長 西尾美沙子

要旨

介護現場では、2015年4月の介護報酬改定で、ほぼ全ての介護サービス事業所で基本報酬が引き下げられ、介護サービス事業所の経営状態は深刻となっている。愛知県は、介護労働者の有効求人倍率が4倍と東京に次いで高く、どの施設も介護労働者が不足し、人材確保に苦慮している。

国は、2015年4月の介護報酬改定で、介護職員処遇改善加算の改定を行ったが、基本報酬の引き下げの影響で、介護職員の増給が不十分であることから、2017年4月にも1万円程度の増給を検討することが報じられている。

介護労働者の人材不足の一番の要因は、全産業の平均賃金より月額9万円から10万円も低い賃金にあり、収入源である介護報酬が現行のままでは、介護サービス事業所の努力に限界がある。国は、少なくとも全産業の平均給与水準を目指して、介護労働者の低賃金を一刻も早く改善することが求められている。

他の産業との人材獲得競争が激しい愛知県の介護人材は、団塊世代が75歳以上となる2025年までに、2万4000人不足すると想定されており、県は、2016年9月の補正予算で、福祉・介護人材確保対策費を計上し、高齢者等の人材バンクの創設など新たな試みを始めたところである。

介護現場は、年次有給休暇はもとより、公休すら計画どおりに取得できないという実態が横行しており、人員配置基準を引き上げ、16時間以上に及ぶ長時間での1人体制の夜勤の改善など、労働環境の改善を図ることは、離職防止を進める上で、極めて重要な課題となっている。

国は、将来を担う介護職員が定着して働き続けられるよう、介護労働者の処遇改善と人員配置基準の引き上げを一刻も早く実施することが求められている。

ついては、貴議会が次の事項を内容とする意見書を国に提出されるようお願いする。

- 1 介護職員を初めとする介護現場で働く全ての労働者の処遇改善を図ること。
- 2 介護保険施設の人員配置基準を、利用者2人に対して介護職員1人以上に引き上げること。夜間の人員配置を改善し、1人体制の夜勤を解消すること。
- 3 介護職員を初めとする介護現場で働く全ての労働者の処遇改善を図ること並びに介護保険施設の人員配置基準を、利用者2人に対して介護職員1人以上に引き上げること及び夜間の人員配置を改善し、1人体制の夜勤を解消することの実現を図るために、介護報酬の大幅な引き上げを行うとともに、処遇改善についての費用を国費で賄うこと。

安全・安心の医療・介護の実現と夜勤・交代制労働の改善を求める意見書提出に関する件

請願者 天白区笹原町1706番地
愛知県医療介護福祉労働組合連合会
副委員長 西尾美沙子

要旨

2014年10月に施行された改正医療法では、医療従事者の勤務環境改善に関する規定が明記され、都道府県の役割として、医療機関の勤務環境改善のための相談、情報提供、助言、調査、啓発活動等の支援と、その拠点となる医療勤務環境改善支援センターの設置が努力義務とされた。愛知県は、2016年2月に愛知県医療勤務環境改善支援センターを設置し、愛知労働局と一体となった医療従事者の勤務環境改善に向けた取り組みが始まったところである。

愛知県は、2015年10月に、県内の病院で働く看護職員4991人を対象に、看護職員の就業継続に関する意識調査を行い、3192人から回答を得た。その中で、この1年の間に離職を考えたことがあるかとの問いに、「ある」と答えた看護職員は50.2%に上り、勤務年数10年以上15年未満の看護職員で、離職を考えたと答えた人は58.8%を占めた。離職を考えた理由は、「給与に不満がある」と答えた人が最も多く58.1%、「看護研究や委員会が負担」と答えた人が52.5%、「責任が重い」と答えた人が48.8%、精神的な健康面が不安と答えた人が48.7%、身体的な健康面が不安と答えた人が44.9%、有給休暇がとれないと答えた人が44.7%、医療事故が不安と答えた人が44.6%と上位を占め、安全・安心の医療を提供するために、過重な働き方を改善するための対策強化が一刻も早く求められていることが明らかとなった。

2014年7月に、愛知県議会は、看護職員の確保対策の充実についての意見書を国に提出したところではあるが、2025年超高齢化社会が訪れるもと、愛知県内の医師・看護師不足は、依然として深刻な状態にある。よって、国には、医療従事者の定着に向け、離職の大きな要因となっている夜勤・交代制労働を改善するための規制を設けることが強く求められている。また、介護施設においては、16時間以上に及ぶ長時間での1人体制の夜勤が圧倒的に多く、夜勤労働の苛酷さから、介護職員の離職率は16.5%と高どまりとなっている。

については、貴議会が次の事項を内容とする意見書を国に提出されるようお願いする。

- 1 医師・看護師・医療技術職員・介護職員などの夜勤・交代制労働における労働環境を改善すること。
 - (1) 1日8時間以内を基本に、労働時間の上限規制や勤務間のインターバルの確保や夜勤回数の制限など、労働環境改善のための規制を設けること。
 - (2) 夜勤・交代制労働者の労働時間を短縮すること。
 - (3) 介護施設などにおける1人体制の夜勤を早期に解消すること。
- 2 安全・安心の医療・介護を実現するため、医師・看護師・医療技術職員・介護職員を増員すること。

憲法第25条を守り、障害者権利条約に基づいた障害者福祉施策の実現を国に要望し、障害者福祉施策を充実させ、福祉労働者の労働条件を改善することを求める件

陳情者 緑区鳴海町字大清水69番地の1404
ゆたか福祉会労働組合
執行委員長 遠山 誠

要 旨

現在、政府は、社会福祉・社会保障に対して、「自然増も含め聖域なく見直し、徹底的に効率化」するとして、生活保護基準の引き下げや介護保険の改悪などを強行し、社会福祉・社会保障を破壊し続けている。こうした弱者を切り捨てる国の動きに、私たちは大きな危惧を抱いている。

障害者福祉分野では、平成28年に障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）の見直しが行われたが、当事者や関係者が求めていた、障害者自立支援法違憲訴訟における基本合意や障がい者制度改革推進会議総合福祉部会の骨格提言を踏まえた見直しとはならなかった。この間の政府の動向は、憲法第25条も守られず、ますます障害者の権利を侵害する方向に向かっていると言わざるを得ない。逆行する国の動きに歯どめをかけ、改めて憲法を守り、障害者権利条約並びに上記の基本合意及び骨格提言に沿った制度改革が必要である。

あわせて、障害を持つ者たちへの支援に日々携わる福祉労働者の労働環境や労働条件も、苛酷な状況が続いている。現在の低賃金や不安定雇用、また、余裕のない厳しい労働環境のもとでは、どんなに情熱があっても、安心して働き続けることはできない。障害者及びその家族の願いに応えるためには、福祉施策の充実とあわせて、福祉労働者の労働環境・労働条件の大幅な改善も必要である。

名古屋市においては、国に対して障害者福祉施策の抜本的な見直しを求めるとともに、障害者及びその家族の願いをもとに、独自に障害者福祉にかかわる施策を充実させ、福祉労働者の労働環境・労働条件の改善につながる施策を講じてほしい。

については、次の事項の実現をお願いする。

- 1 障害者権利条約並びに障害者自立支援法違憲訴訟における基本合意及び障がい者制度改革推進会議総合福祉部会の骨格提言の内容に沿った障害者福祉施策の実現を、国に強く要望すること。また、名古屋市としても、独自に利用者本位の障害者福祉施策を推進すること。
- 2 福祉労働者の労働環境・労働条件の抜本的な改善、すなわち不安定雇用の非正規職員が多数を占める実態を改善し、正規職員の配置を大幅にふやすことにつながる施策を講じること。
- 3 社会福祉法人以外の運営主体の参入数増加を理由に、社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成を廃止したことは容認できないため、社会福祉法人の役割を発揮させていくためにも、社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成を復活させるよう国に要望すること。あわせて、名古屋市としても、独自に公費助成の実施を検討すること。

介護保険制度の改善を求める件

請願者 千種区千代が丘5番 コミュニタス千代が丘S棟301号
中村 亘

要 旨

名古屋市の第6期介護保険料は、基準額月額が5894円で、飛島村、東栄町に次ぐ県下3番目の高額となった。介護報酬2.27%削減で、事業所廃止に追い込まれた事業者もある。

2015年4月から、特別養護老人ホームへの入所は、原則要介護3以上の者となった。加えて、8月からは、年収280万円以上の利用者の利用料負担が2割に引き上げられた。さらに、施設入所者の補足給付も、資産調査に基づいて、打ち切りが強行された。制度改悪によって、市民の負担増とサービス抑制が続く中であって、市民の命と暮らしを守る防波堤として、自治体の役割はますます大きくなっている。

名古屋市では、2016年6月から、新しい総合事業への移行も始まる。市民の要求に応え、内容豊かなものになることが切望されている。

については、こうした状況を踏まえ、私たちは介護保険制度の改善を目指し、次の事項の実現をお願いする。

- 1 介護保険料及び利用料の独自の減免・減額制度をつくること。
- 2 特別養護老人ホームなど介護施設を増設し、待機者を早期解消すること。
- ~~3 要介護3以上の特別養護老人ホーム入所制限を撤回すること。~~
- 4 介護サービス利用希望者は、全て要介護認定を実施すること。また、要支援者の訪問介護・通所介護については、専門職による現行のサービス水準を維持すること。
- 5 介護職員が離職することがないように、待遇を改善すること。
- 6 国庫負担を引き上げるよう国に要請すること。

(参 考)

平成28年4月25日	第1項、第2項、第4項～第6項	保 留
	第3項	不採択
平成28年9月6日	第1項、第2項、第4項～第6項	保 留

平成28年請願第22号

国民健康保険制度、高齢者医療制度及び介護保険制度の改善を求める件

請願者 南区芝町159番地
名古屋の国保と高齢者医療をよくする市民の会
代表者 小室 勲

要 旨

名古屋市の国民健康保険料は、国の制度改革による財政支援を受けて、1人当たり平均で、2015年度予算では年額3213円、2016年度予算では年額613円引き下げられた。しかし、それでも5大政令指定都市である横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市の中で、横浜市に次いで2番目に高い国民健康保険料であり、さらなる国民健康保険料の引き下げが必要である。

名古屋市は、国民健康保険料負担を軽減する独自の減免制度を設けているが、申請しないと適用されないために、特別軽減では該当する世帯の7割以上が減免されていない。また、子育て世代支援のためにも、子供から国民健康保険料を取らない対応が必要である。

国民健康保険料が長期間未納になっている世帯に対して、資格証明書を発行する場合が多数あり、差し押さえがふえている現状は、改善が必要である。

介護保険料及び介護保険利用料については、他の多くの市町村には独自の減免制度があるが、名古屋市には独自の減免制度がない。また、介護保険制度の見直しに当たっては、今までどおり要支援者がホームヘルプやデイサービスなどを受けられることや介護従事者の質の確保が必要である。

については、誰もが健康で生き生きと暮らせる制度の充実に向け、次の事項の実現をお願いする。

- 1 国民健康保険料を大幅に引き下げること。
- 2 国民健康保険料の減免制度を拡充し、該当する全世帯を自動的に減免すること。
- 3 0歳の乳児から18歳までの子供は、均等割の対象としないこと。
- ~~4 国民健康保険の資格証明書・短期保険証の発行や、生活実態を無視した差し押さえはやめること。~~
- 5 後期高齢者医療制度における保険料の9割軽減などの軽減特例を継続するよう国に求めること。
- 6 介護保険料及び介護保険利用料の減免制度を新設すること。
- 7 要支援者が今までどおり介護サービスが受けられるようにすること。

(参 考)

平成29年2月8日 第1項～第3項、第5項～第7項 保 留
第4項 不採択

平成28年請願第24号

若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める意見書提出に関する件

請願者 西区押切二丁目1番27号 ロイヤルクレスト浅間町401号
全日本年金者組合愛知県本部名古屋市内支部協議会
議長 渡 邊 義 巳

要 旨

厚生労働省は、名目手取り賃金変動率が2.3%上昇したことを受けて、平成27年4月に、初めてマクロ経済スライドを適用し、マイナス0.9%のスライド調整率により、年金を本来の改定額から減額した。

今年は、物価変動率が0.8%上昇したにもかかわらず、名目手取り賃金変動率が0.2%下降したため、マクロ経済スライドの調整は適用されなかった。しかし、物価上昇に伴い、年金は実質低下となり、消費税の増税、物価の上昇、健康保険料・介護保険料の値上げ及び医療費の窓口負担の増加で、高齢者は、食生活さえも切り詰めなければならない状態に追い込まれている。

若者たちの中では、非正規労働者が約40%と大幅に増加し、年収200万円以下の生活を余儀なくされている者もいる。また、国民年金の未納付率は36%を超え、将来の生活設計すら立たない状況である。

政府・厚生労働省は、貧困化する国民生活を顧みず、マクロ経済スライドを確実に実施するために、前年度までの未調整分をキャリーオーバーさせる制度を導入し、今後、年金を30年間も切り下げ続けようとしている。その上、国民の貴重な財産である年金積立金の株式運用をふやし、この間、10兆円近い損失を出している。

私たち年金者組合は、高齢者が地域で安心して生活できることを望み、まちづくりに貢献できることを願っている。

ついては、年金問題にかかわる私たちの切実な要求として、貴議会が次の事項を内容とする意見書を国または政府関係省庁に提出されるようお願いする。

- ~~1 年金を毎年引き下げるマクロ経済スライドを廃止すること。~~
- 2 全額国庫負担の最低保障年金制度を早期に実現すること。
- 3 年金の支給開始年齢は、これ以上引き上げないこと。
- ~~4 現行の年金積立金の株式運用を厳しく制限し、損失が生じた場合は、年度ごとに補填する制度を確立すること。~~

(参 考)

平成29年2月8日 第1項及び第4項 不採択
第2項及び第3項 保 留

